

【小笠原村】
校務 DX 計画

1. 校務 DX を推進する上での現状と課題

「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」による自己点検の結果、現状では、研修をハイブリッド形式で実施しており、参加者の利便性を考慮した取り組みが進められ、効率的な運営が図られている。

令和 6 年度より東京都島しょ町村の参画町村で構成する東京都島しょ教育情報システム共同利用委員会により、統合型校務支援システムを共同調達し、運用している。

この校務支援システムの活用を促進することにより、業務の効率化、ペーパーレス化を図っていく。

なお同システムは独自開発の新規システムのため、学校現場で求められている機能や帳票出力の仕様等との整合が取れていない面があるのに加え、独自のシステムのため、他地域から異動してきた教職員が操作方法を新たに習得しなければならないことも課題である。

2. 校務 DX を推進するための課題解決策

研修におけるオンデマンド視聴の導入を検討し、参加者が自分のペースで学べる環境を整えることで、情報の共有と活用を促進する。

システムの改修・改良することで、校務のDX化を推進していく。

3. 次世代校務 DX 環境の整備について

令和 5 年 3 月に文部科学省より方向性が示された「次世代校務 DX」環境（ロケーションフリーでの校務実施、ダッシュボード上での各種データの可視化を通じたきめ細やかな学習指導等が可能となる校務 DX の在り方）を目指し、今後必要な環境整備について、本村の情報通信部署とも連携しながら、検討をしていく。

現在、東京都公立学校における統合型校務支援システムの共通化に向けた検討が進められており、共通化によるスケールメリットを活かした次世代校務DXへの整備について検討していく。